

## &lt;別紙1&gt;

## 第三者評価結果報告書

## ①第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

## ②施設・事業所情報

名称：アートチャイルドケアろりぽっぴたまプラーザ	種別：保育所
代表者氏名：園長 村上 佳寿子	定員（利用人数）： 90名
所在地：〒 225-0002 神奈川県横浜市青葉区美しが丘2-12-1コンフォリたまプラーザ1F	
TEL：045-905-1766	ホームページ：http://www.the0123child.com
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2013年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：アートチャイルドケア株式会社	
職員数	常勤職員： 17名 非常勤職員： 16名
専門職員	保育士 24名 栄養士 1名
	看護師 1名
施設・設備の概要	（居室数）
	（設備等）
	保育室：6室、保健室、給食室、浴室 職員室：4階
	冷暖房、空気清浄機、手洗い、トイレ（子ども用、大人用）、玄関開閉

## ③理念・基本方針

## 【理念】

～「自分らしく」生きていくことのできる子どもを～  
 子どもの全人格を尊重し、子ども達が本来持っている「生きる力」を育み、何を学ぶかよりも、どう学ぶかを考えられる子どもを育てたい。

## 【基本方針】

保育者は子ども一人ひとりのあるがままを受け入れ、「やさしく、あたたかく」の姿勢で接する。安心できる保育者の見守りの中で子どもが安定感をもって遊び、そして生活できるようになる。また、家庭と保育園共同体で子育てしていく中で、子育ての喜びを共有し、子どもと保護者、そして保育者も共に育ち合う「共育」を目指していく。

## ④施設・事業所の特徴的な取組

・保育室はオープンになっており、明るく、各クラスが見渡せる。担任同士の連携も取りやすく、全園児の様子を把握するようにしている。0、1歳児の部屋には壁があり、静かな環境で過ごせるようにしている。また、2歳児以上の部屋と部屋の間にはカーテンがあり、保育の内容、状況によって閉めている。

## 【保育の特徴】

①食育：「食べることは生きること」を合言葉に、食の楽しさ、大切さを学び、食に関わる方々に感謝する気持ちを育てます。②造形：日頃の造形活動を通して、創造性を豊かにします。③絵本の読み聞かせ：様々なお話との出会いが、想像性を豊かにします。お話を通して気持ちを共有する中で、優しい心が育ちます。④栽培、飼育活動：野菜や

草花を育てたり、生き物に触れたりすることで、生命の尊さや自然の豊かさを感じていきます。⑤英語：英語に触れあう中で、感性を養います。（幼児クラス、外部講師）⑥体操：体操を通して、心身を共に鍛え、怪我をしにくい身体を作ります。（幼児クラス、外部講師）⑦エコ育：身近な自然との関わりの中で、その存在の大切さを学ぶと共に、自然環境を守るための活動に取り組みます。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2020年8月1日（契約日） ～ 2021年4月15日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	3回（平成28年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

**・職員の自己評価に力を入れ個々の意識の向上に取り組んでいる**

職員の自己評価を毎月、個人の自己評価票に全職員が記入することで反省や改善点を見出す機会を設けて日々の保育に繋げる事に力をいれており、施設長は個別面談によってアドバイスや問題の共有に努めている。職員会議では、全職員が参画できるよう少人数のグループでのディスカッションを行い、全職員が参画し意見を交わすことができるようにするなど、個々の意識の向上にむけて取り組んでいる。

**・子どもの「個」を大切に、自主性を尊重した丁寧な保育を目指している**

園の基本方針である、子どものあるがままの姿を受け入れるあたたかい保育の実践を第一に、子どもがより安定した日々を過ごせるよう心を込めた保育を目指している。子どもを集団で見るのではなく、第一に「個」を大切に丁寧な保育を目指している。集団活動では、自信が無かったり気持ちが乗らなかつたりするときは、参加を無理強いすることなく、個々の思いを丁寧に受け止め、自ら一步を踏み出せるような環境作りを心がけている。ワンフロアの保育環境で園全体が見渡せる利点をいかし、担任だけでなく他クラスの担任、栄養士や看護師が連携して、園全体でそれぞれの専門性を発揮しながら保育に当たっている。

◇改善を求められる点

**・実効的な事業計画の策定を期待したい**

経営に関しては、本社経営陣が主体となり、中、長期計画を踏まえた単年度の計画を策定しており、理念の実現に向けた3カ年経営方針に従って、各園で法人の書式に従って事業計画を策定している。しかしながら、園の年間の大きな命題であるナンバーワン宣言について事業計画に組み込まれていないことは課題であり、進捗状況についても年度末の反省だけではなく、中間あるいは期毎での達成の状況把握が必要とされる。保護者に向けては、玄関に事業計画を配置しているが、さらにわかりやすく保護者に伝える工夫も望まれる。

**・日々の子どもの保育の様子を伝える工夫が望まれる**

子どもの様子は園だよりやクラスだより、アプリ（コードモン）を活用して保護者に伝え、家庭との情報共有を図っている。一方で、今年度はコロナ禍にあり感染症拡大防止対策として、保護者が園内に入ることはなく園の入り口での引き渡しとしている影響も見られており、「あまり様子を聞けない。」「入り口前が混雑するので、後から来た保護者を気にして話しにくい。」などの意見が保護者アンケートから聞かれている。保護者との対話を通してのコミュニケーションの工夫が望まれる。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で様々な行事が延期、中止となり、自粛中は子ども達がほとんど登園しないこともあり、その時間を無駄にせず、職員間で一年の見通しを持つ話し合いが今迄にないくらいにじっくりと出来た。

第三者評価を受審するにあたり、コロナの関係でリモートや電話での話し合いだったが、職員と話し合っていたこともあり、改めて自分たちの保育内容を見直す良いきっかけとなった。今後も自己評価を丁寧に行う事で、保育の質の向上に職員全員で努めていきたいと思ひます。

改善点として、no.1 宣言を事業計画にしっかりと組み込み、期毎に話し合いを行い、保護者にも伝えて共有していく。保護者とのコミュニケーションについてはコロナの収束がまだ見られないので、今まで以上にアプリ（コドモン）の活用や、個人面談を積極的に行い対話ができるように工夫して、些細な事でも話していただきご家庭と園が密な関係を持ち安心して子ども達が過ごせるようにしたいと思ひます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり